

会 議 録		令和 4 年10月24日作成	令和 8 年 3 月末日廃棄
会議名	京都府北警察署協議会（令和 4 年度第 2 回）		
開催日	令和 4 年10月 7 日（金曜日）		
時 間	午後 3 時 1 分から午後 4 時24分までの間（83分）		
場 所	京都府北警察署 講堂		
出席者	森藤会長、山田副会長、石上副会長、松井委員、野中委員、 プレストン委員、小西委員、森永委員 （欠席 高井委員、作田委員、岡本委員） 計 8 人		
	署長、副署長、会計課長、警務課長、生活安全課長、地域課長、刑事課長 交通課長、警備課長、広聴・相談係長 計10人		
諮 問 事 項	アメリカと日本の治安について		
会 議 内 容	1 署長挨拶	司会	副署長
	2 会長挨拶		
	3 協議	司会	会長
	(1) 諮問事項説明 アメリカと日本の治安について～プレストン委員 委員からアメリカの現状と日本との治安や対応の違いについて、犯罪問題・交通問題・薬物問題・人種問題について講話形式で説明を受けた。		
	【警察】アメリカでは多くの殺人事件が発生しているようだが、殺人事件となれば日本の裁判制度では判決までに何年もかかる。アメリカではどうか。		
	【委員】長くかかるケースは多いと思う。弁護士代も高く付く。調査してみる。		
	【警察】銃の問題について、アメリカでは銃の所持について意見が分かれていると聞くがどうか。		
	【委員】アメリカ人は「自分の身を守るのは自分」であり、銃はその一番良い手段であるから、みんなが銃を持てばよいという考え方である。た		

会 議
内 容

だ、子どものいるところに銃があっても良いのか、また人間には間違いがあるため、何でも銃で解決して良いのかという意見もある。銃に対する考え方が日本とは違う。

【委員】以前、私が京都市内で下宿していた時に銃の発砲音のような音がして驚いた覚えがある。私は日本の法律は加害者を守るためのものと思っているが、アメリカにおける死刑制度はどうか。

【委員】死刑は州ごとに決められており、制度の是非については意見が分かれている。

【委員】日本もアメリカ同様に個人主義化し、また経済的には衰退していくように思う。日本がとるべき治安維持の方法をいかに考えるか。

【委員】たとえば日本には「健康保険制度」がある。この制度はアメリカにはないため、お金がある人は助かり、ない人は助からないことになり、これが大きな格差となる。日本にはこの制度のように「みんなで手を取り合っていこう」というところが見られる。みんなで格差がない社会にしていくことが大事だと思う。

【警察】犯罪は大きかろうが小さかろうが犯罪である。犯罪が多くなると体感治安が悪くなることから、我々も犯罪を減らす努力をしている。アメリカでは小さな犯罪は多いのか。

【委員】アメリカでは小さな犯罪も多い。たとえば、深夜のコンビニは日本では安全であるが、アメリカでは少し危ないところという意識がある。

【警察】日本では交通事故が頻繁に発生すると交通取締りを強化するが、アメリカでも同様か。

【委員】町中の制限速度を落ととしても速度を出す人はいる。制限速度を守っていると危険な目に遭うこともある。その対策として、パトカーを配置したり、レーダーを備え付けて自分の現在の速度を教えるという方法をとるようにしている。自分の速度を意識させることで速度を落とさせようとしている。

【警察】外国人に対する声掛けについて、講話の中に人種差別の元になるような声掛けをしないようにという意見があった。それについて、警察庁からも「外国人だから」という理由で声掛けをしてはいけないと指導を受けている。

【委員】来日外国人の中には、日本は警察から声を掛けられることが多いと恐怖心を抱いている者が多い。インド人の中には、職務質問に備え、常にパスポートを持って疑われないようにしている人もいると聞いている。

【委員】アメリカには敬虔なクリスチャンが多いのに、なぜこのように犯罪が多いのか。

会議 内容	<p>【委員】それはアメリカの大きな矛盾の一つである。私は保守的なクリスチャンではないので分からないが、彼らはアメリカを建国したのは立派だという思いがある。</p> <p>4 事務連絡</p> <p>令和4年度第3回北警察署協議会は、令和4年12月上旬に実施予定である。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>
----------	--

第2回京都府北警察署協議会の開催状況

